

平成 28 年度

2016 年 12 月 3 日

# 学校だより

第 26 号

ヒューストン日本語補習校

中学部 3 年

## ゲイリー中村氏講演会

11 月 12 日(土)、ヒューストン日系人市民連盟副会長のゲイリー中村さんをお招きし、中学部 3 年生を対象として講演会を開催しました。



ゲイリー中村さんのお父様は、第二次世界大戦において日系人強制収容所に収監されましたが、そこからアメリカ軍に志願し、太平洋戦争で主に中国で戦闘に参加されました。戦後、ビジネスに成功し引退後ヒューストンで暮らしました。



そういったお父様の体験談と、現在の日系人のアメリカでの様子、日系人としての役割などについて講演していただきました。



## 駿台「帰国生大学進学講演会」の様子



(運動会の作文より)

## 一致団結

中 1 江見 亜香里

中学校初の運動会。この短い時間、少ない練習量の中、本当にたくさんの人々の協力によって成功した運動会に改めて感動しました。そして、今年は去年までと違って競技に出て応援するだけでなく運動会を作り上げる側になることで、より忘れられない思い出になりました。

小学校のころは、運動会がどれだけの人の手によって、どのようにできているかをあまり深く考えたことがなかったです。たくさんの方が、いろいろしてくれているんだな、と思ったくらいです。中高生が手伝いをしてくれているという事は知っていましたが、自分の競技や自分のすることばかりに集中していて、準備や出発合図、放送、飛び越えるテープを持ったり、点数を数えたり、後片付けまで数えきれないほどたくさんの方を先生方と中高生がしていると全然気づいていませんでした。朝グランドに着くと、テントが張ってあり、線が引いてあり、競技では縄跳びがいるときは縄跳びが置いてあり、ゴールにはきちんとゴールテープがあり、それが当たり前のように感じました。

でも、今年手伝う立場になり、これはすべて先生方、保護者の方、そして中高生の手で作られていることが分かりました。先生方が予定を決め、現地校にも許可をもらい、することを分担し、保護者の方々が準備を手伝い、それに中高生が加わり、当日様々な係の仕事をしているからこそ運動会を開催できるのです。中高生もたくさんの方があり、運動会を開催するにあたって欠かせない存在であることが分かりました。中学生は、まだまだできないことがたくさんあり、学ぶことがたくさんある子どもですが、運動会のような大きな行事で大きな力になっていることは本当に嬉しいです。

私は今まで運動会の作文には自分の競技で心に残ったことを書いていました。それ以外のことを書いたのは初めてです。もちろん、今年の騎馬戦、綱引き、リレーも本当に楽しく良い思い出になりました。でも、今年の一つも競技に出ていない前半もくたくたになるぐらい手伝ったことが印象的でした。

日本から遠く遠く離れたヒューストンでも、なるべく日本のような経験を私たちができるように、限られた時間の中でどれだけの人が協力しているかを実感しました。でも、補習校の運動会は普通経験できない、ヒューストン日本語補習校ならではの運動会であり、中学最初の運動会として一生忘れられないと思います。補習校の運動会のように、多くの人々が一致団結し、一つの目的に向かって全力を出せばどんな短い時間でも運動会のようなすばらしいことができるんだと思いました。今年の運動会を可能にし、私にすばらしい経験をさせてくださった先生方、保護者の方、一緒に手伝いをした仲間たちに感謝したいです。そして、私もこれからどんどん力になりたいです。

## 勝ち負けより大事なこと

### 中1 増田 佳蓮

朝起きると、急いで運動会の準備をして補習校に向かった。前日は雨が降っていたが、空を見ると青い空、そして綺麗な太陽が輝いていた。

グラウンドに着くと、友達がいたので、一緒に係のところまで向かった。今年はそんなに出る競技がなく、係の仕事がメインだった。まず、係の仕事を終え、ラジオ体操の練習を行った。小学3年生の時から、いつか運動会でみんなの前でラジオ体操をしたい、とあこがれていた私は、今年ついにする機会を与えられたことが実は嬉しかった。前日までの一週間、携帯やコンピュータでYouTubeでラジオ体操のビデオを見て練習していたが、まだ緊張していた。空を見ると、「頑張ってる！」と言っているように見えて、ますます元気になった。

とうとう、ラジオ体操の時間になった。しかし、目の前の小学2年生たちの目が全員私のことを見ていることに気づくと、緊張感に満ちて頭の中が真っ白になった。順番も忘れ、目の前の2年生の子たちを見ていると、緊張して間違ってしまった。でも、友達が「もち間違えたら、ポーカーフェイスでいるのよ！」と言っていたことを思い出した。なるべく堂々としていようと心に決め、自分に自信を持って、と頭の中で自分に言い聞かせ、最後まで頑張った。

大玉送りが終わると、すぐ係の仕事が始まった。次の競技は小学3年生の「仲良くフラフープ」だった。私の仕事は、3年生の子たちが最初に抜けるはしごのような物を持つ仕事だった。持つだけなので、簡単だと軽く考えていたら、実際はもっと大変だということに仕事を始めてすぐ気づいた。その「はしご」のような物は、とても外れやすく、毎回外れるたびにテープを貼らなければならなかった。そして、体が大きめな子たちは穴

に入れず、何回もそのはしごを壊してしまい、大変な作業だった。私は一瞬パニックにおちいったが、高校生たちはもう慣れていて、プロのように仕事を続けていた。

係の仕事がないときは、友達と話すことができ、楽しかった。それもつかの間、次は「親子玉入れ」だった。どこに立つかもわからなく、意外と大変だった。仕事で一番楽しかったのは、「チェッチェコリ玉入れ」だった。小学2年生と3年生の子たちと一緒に踊ることが出来、小さかった頃の自分を思い出した。

点数表を見ると、紅組が勝っていた。今日はいい日になるなと思うと、気合いが入った。リレーが終わると、昼ご飯の時間になった。これまで運動会では毎年、家族とお弁当を食べてきたら、今年は友達と一緒に食べた。みんなと話すことが出来て、楽しかった。気づくと、外は朝よりも更に暑くなっていて、頭を触ると熱いフライパンみたいだった。

そして、ついに騎馬戦の時間が来た。私はこの一週間騎馬戦のことを考えて少し気が重かった。練習の時は、下にいて、手が汗のせいで滑り、上の人が落ちそうになってしまい、とても緊張していた。だが、実際に組んでみると、実はそんなに難しくなくて、思いのほか楽しかった。白のチームに追いかけられ、全力で走ったが、私にとって最後の騎馬戦、楽しい思い出を作ることができた。

その時点で点数板を見ると、白が20点くらいで勝っていた。綱引きで頑張ってる巻き返そうと思い、綱を手が痛くなるほど全力で引っ張った。他のみんなも一生懸命だった。その甲斐あってか、最後に白が巻き返した。でも、やはり競技で一番迫力があつたのは、最後の紅白リレーだった。リレー選手達の顔を見ると、とても真剣で、ただ走ることに集中していた。

リレーが終わりに近づくと、もうすぐ運動会が終わってしまうことに気づき、悲しくなった。私にとって、補習校に通い始めて5回目の運動会。きつともう最後の運動会になるのだと考え、余計に悲しく、寂しい気持ちになった。リレーは接戦だったけれど、最後の総合得点は白が勝った。紅組だった私は、悔しさ、そして悲しさもあったが、考えてみると一番大切なのは勝ち負けではなく、自分がどれだけ楽しんだかという事だと気づいた。昼休みに私が周りを見ていなくてドブに入ってしまった、靴を洗うのを友達が助けてくれたこと、念願だったラジオ体操をみんなの前で出来たこと、プラカードを持つことが出来たこと、係の仕事も経験できたこと。最後の運動会は、忘れられない、楽しい思い出になりました！

## 係りの影響

### 中1 マッコウリー 沙羅

運動会の2日前、私は日本の学校に4年生までいた時の、運動会の「思い入れ用紙」を見つけました。そして、読んでいくうちに、私はあることに気づきました。それは、思い入れが全部自己中心的だったことです。すべて、「がんばります」「精一杯、できるだけ速く走ります」など、みんなで一致団結するような思い入れや、「全員で力を合わせて」というものではなく、すべて自分がよければいいと言っているようにも思えました。

金曜日の夜、私は自然とある紙を読んでいました。私は、自分が何を読んでいたかに気づいた時、びっくりしました。それは、係りの説明書でした。私は、今まで運動会前日に多分一度も、人の為に何かをしなきゃと説明書を読んだことは無かったです。何かを読んだとしても、それは多分天気予報の字幕くらいか、または、自分の競技の説明といったところでしょう。私は、最終確認をしながら思いました。「少しは大人になったのかな？」前までは、自分のことで精一杯で、係りなんて上級生がやっていたことさえも知りませんでした。私は正直に言うと、係りなんて面倒だな一とっていました。だけど、いざやってみたらやりがいがあり、楽しくて、とってもいい思い出で、来年が待ちきれないほどです。

私は、係りをしたことで、自己中心的に応援もせず自分だけがうまくいけばいいという思いが無くなり、心から応援ができるようになって、よかったです。

(落語へのおさそい)

## 古今亭菊志ん 師匠

ヒューストン公演

日時：12月12日(月)

6:00 受付 6:30 開演

場所：Fort Bend Music Center  
(YAMAHAの看板が目印です)  
3133 Southwest Freeway,  
Houston TX 77098  
(Buffalo Speedwayと59の  
交差点の近く)

中学生以下無料

申し込み：[jagh.mail@gmail.com](mailto:jagh.mail@gmail.com)

もしくは713-818-2326

主催：ヒューストン日本会

## お知らせ 補習校への出入りについて

保護者の皆様には、補習校への不審者侵入への抑止力として、毎週順番にパトロールをお願いしております。ありがとうございます。

さて、8月に職員室を移動したことにより、補習校関係者の出入りはAウィングのみとなりました。

つきましては、12月より通常の送迎時間以外(9:15~14:25)の入口は、Aウィング北側の職員室側のみとします。ドアの近くにパトロールの方がおられますので、お声かけください。保護者カードの着用をお願いします。(出口はAウィング北側の2カ所となります。)

## ◆パトロール当番予定表(12月10日)◆

これは当番一覧表に記載された予定です。変更の場合はこの表とは異なりますのでご注意ください。

	学年	順位	児童生徒氏名
★AM1 (リーダー)	小3	10	若林 洋介
AM2		11	芦田 結衣
AM3		12	石田 千枝
AM4		13	河村 すず
AM5		15	田中 聖夏
AM6		16	エリオット 恵美
AM7		17	内田 柚希
AM8		18	大木 怜央
AM9		19	大塚 大和
★PM1 (リーダー)		20	木村 涼乃
PM2		21	大塚 彩音
PM3		22	原 オードリ
PM4		23	田中 大成
PM5		24	竹内 盛治
PM6		25	スコット 仁
PM7		26	有田 想
PM8		27	大場正太郎
PM9		28	島 佑樹

## 保護者カード着用のお願い

保護者の皆様が補習校へ入る場合は、不審者侵入の抑止力として、保護者カードの着用をお願いしています。

おめでとうございます

海外子女教育振興財団主催

第三十七回海外子女文芸作品コンクール

俳句の部 入選 『佳作』

小学部一年 古田ともし

「ともだちと かわにいったよ なつのあさ」

小学部一年 渡部さつき

「なつやすみ かいがらみつけた あさのうみ」

## 《学籍》

転出

幼星（高島聡太）、小2A（高島綾乃）

小2B（柳本悠歌）、中1A（東條凜恩）

転入

幼宙（村瀬央華）、小3D（日下大地）

在籍数（12月3日現在）497名

幼42名、小349名、中74、高32名

Japanese Language Supplementary School of Houston

12651 Briar Forest Drive, Suite 105, Houston, Texas 77077

Tel: 281-531-6743 / Fax: 281-531-6795 (事務局 火～金)

Tel.Fax: 713-973-0659 (職員室 土のみ)

E-mail: jlssh@jeihouston.org Ho

(文責) 校長 立野誠之

## 《今後の予定》 変更する場合もあります

- 12/10 中・高等部中間考査②  
お楽しみ音楽会（幼・小1・小2）
- 12/17 PTA 役員会、幼稚部公園遊び
- 12/24～ 冬休み
- 1/7 中学部・高等部入学説明会  
PTA クラス委員会
- 1/14 餅つき大会、高等部入学面接①  
中学部校内漢字検定
- 1/21 幼稚部入園面接、小学部入学面接  
高等部入学面接②、第3回英語検定  
年賀状展・硬筆展①
- 1/28 第3回漢字検定、高等部入学面接③  
年賀状展・硬筆展②